



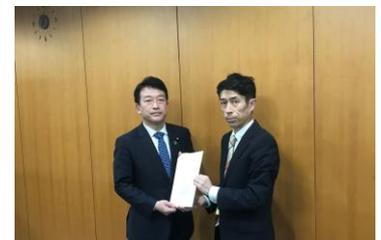
Press Release

For immediate release – 2021年2月22日

WWFインターナショナル事務局長、 プラスチック汚染解決のための新たな国際協定発足への支持を日本政府に要請

1. WWFインターナショナル事務局長 マルコ・ランベルティニからの書簡を政府に提出。プラスチック汚染解決のための新たな国際協定発足への公式の支持を要請
2. 現在、年間1,100万トン以上のプラスチックが海洋へ流出。年間流出量は今後20年間でさらに約3倍になると予測。世界の海洋に存在するプラの量は、このままでは2040年には現在の量の3倍の4億5千万トンと想定
3. その解決には、拘束力のある包括的な国際解決枠組を、国連での国際協定という形で発足させることが求められる。世界で200万以上の人々、約40の国際企業、約70の国と地域が、この新たな国際協定の発足を支持

国際環境保全団体の公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン（東京都港区 会長：末吉竹二郎 以下、WWFジャパン）は、2月22日、日本政府（内閣総理大臣、外務大臣、経済産業大臣、環境大臣）に対し、プラスチック汚染解決のための新たな国際協定発足への公式の支持を要請する、WWFインターナショナルのマルコ・ランベルティニ事務局長からの書簡を提出しました。



笹川博義 環境副大臣に書簡を手交

プラスチック汚染は、生態系を脅かす国際的な問題です。世界の90%の海鳥がプラスチックを摂取しており、2050年にはその割合は99%になると推定されています。現在、年間1,100万トン以上のプラスチックが海洋へ流出しており、年間流出量は今後20年間でさらに約3倍になると予測されています。そして、世界の海洋に存在するプラスチックの量は、このままでは2040年には現在の量の3倍の4億5千万トンとなると想定されています。

プラスチック汚染に対処する自主的な取り組みや、各国による規制は急速に増えていますが、プラスチックの流出の度合いが収まる兆しは見られません。各国政府や企業が同様の条件で活動することで世界的な変革をもたらすために、国際的に連携して対応していくことが欠かせません。そして、プラスチック汚染を防止、制御、除去するための明確な義務や責任を定めた拘束力のある包括的な世界的な解決枠組を、国連における国際協定という形で発足させることが求められています。世界で200万以上の人々(*1)、約40の国際企業(*2)、約70の国と地域(*3)、この新たな国際協定を発足させることを支持しています。

日本政府は、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」をG20大阪サミットで共有するなど、プラスチックの危機への対処にリーダーシップを発揮してきましたが、国際協定への公式な支持は、未だ表明していません。

WWFは、2021年2月と2022年2月にそれぞれ開催される第5回国連環境総会（UNEA5）において、日本が国際的な議論をリードしていくことを望んでいます。そして**日本政府に対し、プラスチック汚染に対処するための法的拘束力のある新たな国際協定の発足を公式に支持する国に加わっていただき、そこで主導的な役割を果たしていただくことを要請しました。**このように日本政府が更なるリーダーシップを発揮することで、早急に深刻なプラスチック汚染問題の解決に向けた道筋をつけていくことが期待されています。

- 【註】 (*1) <https://www.wwf.or.jp/activities/project/4446.html>
(*2) <https://www.wwf.de/global-plastic-navigator>
(*3) <https://www.plasticpollutiontreaty.org/>

【添付書類】「プラスチック汚染解決のための新たな国際協定発足を主導いただくことへの要請」書簡：日英 各1部

WWFジャパン プレスリリース一覧 <https://www.wwf.or.jp/press/>



WWF International
Rue Mauverney 28
1196 Gland
Switzerland

Direct: +41 22 364 9280
Fax: + 4122 364 0332

mlambertini@wwfint.org
wwf.panda.org

内閣総理大臣 菅 義偉 殿

外務大臣 茂木 敏充 殿

経済産業大臣 梶山 弘志 殿

環境大臣 小泉 進次郎 殿

2021年2月

プラスチック汚染解決のための新たな国際協定発足を主導いただくことへの要請

新型コロナウイルス感染症が世界中のコミュニティに脅威を与えていますが、皆様やご関係者、日本国民のおかれましては、ご無事であることを願っております。公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）及びWWFインターナショナルを代表して、日本での2050年のカーボンニュートラルへの転換を目指した動きを歓迎いたします。世界的なプラスチック汚染を含め、今日の地球を取り巻く自然生態系の危機に対処するために、このように強いリーダーシップや大望、緊急性を持つことは、重要なことです。

プラスチック汚染は、世界中の生態系や人類の健康を脅かす国際的な問題です。現在、年間1,100万トン以上のプラスチックが海洋へ流出しており、年間流出量は今後20年間でさらに3倍になると予測されています。特に、（日本と関係の深い）東南アジア諸国の政府においてこの問題は深刻で、経済的な損失は年間13億ドル以上と推測されています。昨年11月に開催され最終回となった第4回国連海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチックに関する専門家会合（AHEG4）では、大半の加盟国が、プラスチック汚染に対処するための新たな国際合意、及び、直ちに国際合意に向けた交渉の開始が必要であるとの見解を表明しました。これには、EUやイギリス、韓国等のG20加盟国、アフリカ諸国、太平洋島嶼国その他からの特筆すべき表明も含まれています。さらに、世界で200万以上の人々、30以上の国際企業、約70の国が、プラスチック汚染を解決する新たな国際協定を発足させることを支持しています。日本政府としてもGroup of Friends to Combat Marine Plastic Pollutionに加わることで、国際的な枠組みや新たな国際協定という選択肢への興味を示しています。

私たちは、2050年までに新たなプラスチックの海洋流出を根絶するという目標をG20で合意した大坂ブルーオーシャンビジョンの設定などにおいて、これまで日本政府が地域や国際レベルで世界的なプラスチックの危機に対処してきたことを評価しています。大阪ブルーオーシャンビジョンは、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある新たな国際協定を発足させるために重要な示唆を与えることができます。そして、日本政府はこの分野で世界的なリーダーとして、プラスチック汚染についての将来の国際的管理の枠組みを、意欲的で効率的なものとしていくために、重要な役割を果たすことが出来ます。また、私たちは、日本政府が進める、途上国における重要な能力開発やインフラ整備の支援を行うマリーン（MARINE）・イニシアチブについても評価しています。しかし、国や地域レベルでの施策は有効ではあるものの、構造的な要因が解決を阻んでいます。プラスチック汚染に対処する自主的な取り組みや各国による規制は急速に増えているにもかかわらず、流出の度合いが収まる兆しは見られません。各国政府や企業が同様の条件で活動することで世界的な変革をもたらすためには、国連で協定という形での国際的に連携した対応が欠かせません。

私たちは、2021年2月と2022年2月にそれぞれ開催される第5回国連環境総会（UNEA5）において、AHEGでの経験や提案を活かすべく、引き続き日本が国際的な議論をリードしていくことを望んでいます。私たちは日本政府に対し、プラスチック汚染に対処するための法的拘束力のある新たな国際協定の発足を公式に支持する国に加わっていただき、そこで主導的な役割を果たしていただくことを要請します。日本政府のリーダーシップを活かすことで、私たちは共に、堅牢で意欲的で変革をもたらす統合的な行動を実現させていくことができます。

WWFは、これについて日本政府と更なる対話を希望します。そして、私たちはこの分野で日本政府に協力していくことを惜しみません。私は、これからの一年間、日本政府と共に活動できることを願っています。それにより、私たちの地球の健全性に欠かせない海洋環境からプラスチックを根絶するための国際的な意識を高めていくことが出来るでしょう。



WWFインターナショナル 事務局長

マルコ・ランベルティエーニ



WWF International

Rue Mauverney 28
1196 Gland
Switzerland

Direct: +41 22 364 9280
Fax: + 4122 364 0332

mlambertini@wwfint.org
wwf.panda.org

Suga Yoshihide
Prime Minister

Motegi Toshimitsu
Minister of State for Foreign Affairs

Kajiyama Hiroshi
Minister of Economy, Trade and Industry

Koizumi Shinjiro
Minister of the Environment

15 February 2021

Your Excellencies Suga Yoshihide, Motegi Toshimitsu, Kajiyama Hiroshi and Koizumi Shinjiro,

Request for Japan leadership for a new global treaty on plastic pollution

I hope you, your relatives and colleagues, and Japanese citizens are safe as the global COVID 19 pandemic continues to challenge communities around the world. On behalf of the World Wide Fund for Nature, Japan (WWF-Japan) and our Board of Directors, we wish to applaud Japan's recent political shift on climate change towards reaching net zero by 2050; such strong leadership, ambition and urgency is fundamental to addressing the ecological crises that faces our Planet today, including for addressing the global plastic pollution crisis.

Plastic pollution is a global issue that threatens ecosystems and human health around the world. Currently, more than 11 million metric tons of plastic are flowing into the ocean each year and the global volume of plastic entering the ocean is forecast to triple over the next 20 years. For most governments in Southeast Asia, this problem is particularly pertinent with the economic impact estimated to be US\$1.3 billion per year. At last year's fourth and final meeting of the UN Ad Hoc Open Ended Expert Group on Marine Litter (AHEG), **a majority of member states called for a new global agreement on plastic pollution and for negotiations to start immediately**. This included landmark announcements of support by **members of the G20** (e.g. **the European Union, the UK, Republic of Korea**), all African countries and the Pacific Island States, among many others. Alongside 2 million people and over 30 global business leaders, almost 70 countries have committed to develop a new global treaty on plastic pollution. By joining the Group of Friends to Combat Marine Plastic Pollution, Japan has also shown interest in exploring improved global governance and the option of a new treaty.

We further wish to commend Japan's efforts to date in addressing the global plastic crisis at the regional and international levels, notably through its work with the Osaka Blue Ocean Vision and the endorsement by the G20 of the goal to eliminate the leakage of plastic pollution into our oceans by 2050. The Osaka Blue Ocean Vision can serve as an important source of inspiration in the development of a new international legally binding treaty on plastic pollution, and Japan as a global leader on this topic could play a key role in ensuring that a future global governance framework for plastic pollution is both ambitious and effective. We also commend the leading MARINE Initiative which will support vital capacity building and infrastructure development in developing countries.

Whilst acknowledging the value of national and regional instruments, systemic barriers still hinder progress. Despite the exponential growth in voluntary initiatives and national regulations to tackle plastic pollution, there is no sign that leakage rates are slowing. A coordinated global response in the form of a UN Treaty is required to help governments and businesses level the playing field and drive change at scale.

As we look ahead to UNEA's 5th conference in 2021 and 2022, we hope that Japan will continue be a leading voice in international discussions as we build on the lessons learnt and recommendations generated by AHEG. **We would encourage Japan to consider joining other nations in officially supporting and being a champion of a new legally binding global treaty on plastic pollution**- your strength in leadership would ensure that we develop strong, ambitious and transformative united actions together.

WWF would welcome an appointment to discuss the above further and we stand ready to support you in this area. I look forward to working together in the year ahead. By working together, we can galvanise global ambition in order to eliminate plastic in the marine environment upon which the health of our planet depends.

Yours sincerely,

A handwritten signature in blue ink, appearing to read 'Marco Lambertini', with a stylized flourish at the end.

Marco Lambertini
Director General